

フツウの人のためのパソコン基礎講座

0.はじめに

パソコンやインターネットを使う上で、知っていたほうがいいIT関連の“常識”は何か、と言われるとなかなか難しいものがあります。

もともと“常識”というものは、ある社会での理屈というより、たくさんの人たちの体験から出てきた経験則の集大成です。その社会の歴史が長ければ長いだけ“常識”も固まってきています。

しかし、生活の中で一般の人がインターネットを使い出して10年未満、しかも、インターネットの世界はどんどん進化しているという状態では、経験則もなかなか収束せず、これぞ“常識”と言いきれるものがどれだけあるか、判断に迷うところです。

では、生活の場でなく、ビジネスの場で、パソコンやインターネットを使いこなしている人たちにIT関連の“常識”があるか、という、これも甚だ疑問です。企業では、仕事は分割されていて、それぞれに専門家や担当がおり、分担以外のことを知らなくても、プロジェクトは遂行できてしまいます。おかしなことが起こったら専門家に任せればいい…それどころか、おかしなことが起こらないように、ツールに制限をかけ、ほかの使い方を禁じてしまう(規格化、標準化といわれますが)という手も使われる状態では、個人にIT関連の“常識”が育つはずもありません。

その上、“常識”にはレベルがあります。子供から大人に成長していく過程で一般常識がレベルアップしていったように、IT関連の常識も、その人が今、コンピュータをどんな形で使う社会にいるか、で知らなくてはならない常識も違ってきます。

「段階を追うなんて面倒。はじめから全部教えてくれればいい。」

とおっしゃる方もいらっしゃるでしょう。

ところが、大人社会の常識をいきなり小学校一年生に全部を教えられないように、その人のそれまでの経験に応じて、理解できることは限られていますので、なんでも教えれば、なんでも理解できる、ということにはならないのです。たとえ字面でわかって、本当のところは、それなりの経験を試みないとわからない、というのが現実です。

逆の言い方をすれば、常識と言われるもののうち、わからないものがあっても、それは経験が足りないから理解できないのであって、それなりの経験をすれば、必然的にわかってくるものなのです。だから、わからないから、と意気消沈することはありません。

さて、今回は、IT関連の常識について、それなりの経験に応じて、理解しておくよい項目をあげました。ジャンルは「メール編」「インターネット編」「パソコン編」の3つ、レベルの設定は4段階です。

レベル設定はいろいろな切り口がありますが、今回は、目標の欄に書いてあるようなコンセプトで切っています。レベル1から、ステップアップしていきましょう。(レベル4は省略します。)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4以上
対象	はじめて間もない人	そこそこ使えるが、IT関連の本を読むのは嫌な人	知識を増やし、人に頼る場面を減らしたい人	自分である程度メンテナンスのできる人
目標	相手を困らせることがないように	自分が困ることがないように	少しだけ合理的に使えるように	専門的知識も勉強して快適に
メール編	メールで相手に迷惑をかけない最低限の知識	自分でメールを便利に使うための知識	メーラーを合理的に使うための知識	省略
インターネット編	安全にサイトを見るための基礎知識	積極的にサイトから情報収集をするための知識	今風にインターネットを使うときの基礎知識とリスク管理の基礎知識	
パソコン編	パソコンを家電と同じような感覚でフツウに使うための基礎知識	周辺機器をつけて、便利に使う基礎知識やデータに関する最低限のリスク管理の基礎知識	パソコンがクラッシュしたとき、とりあえず復元できる基礎知識。	